



1. エントランスホール  
2. 閲覧室  
3. 手前に公文書館と  
奥に都立多摩図書館



2



3

東京都公文書館 概要

- 所在地 東京都国分寺市泉町2-2-21
- 建築主 東京都
- 設計者 (株)佐藤総合計画
- 施工者 五洋建設(株)
- 竣工日 2020年1月6日

- 敷地面積 6,000㎡
- 建築面積 3,910㎡
- 延床面積 10,259㎡

- 階数 地上3階、塔屋1階
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造



詳細や他の写真などは  
左記の二次元コードから  
Webページに  
アクセスしてご覧ください。

ている。  
施工面では、湧水脈の保護のため  
に施工前から施工後の地下水の水質、  
水位などを観察し、杭工事でベントナイト材を清水に置き換え  
て施工している。リン酸処理鉄板のルーバーのとりつけでは、熱橋の少ない  
とりつけディテールによる精度確保に留意し  
外装の質感に貢献している。更に「アーカイブウォール」の施工では、多摩産杉材の積層合板を高さ一三五ミリ×幅二二センチほどのユニットに分け曲面形状に削り出し、それを積み重ねた表面を研磨し大

まかに三次元形状としたものを現場に搬入し組み立てた後、更に表面を研磨するという手の込んだ工程により質感の高い流れるような壁面が造られている。  
隣接する都立多摩図書館は同じ設計者による三年五カ月前の竣工で同様の建築構成をとること、ともに自由に入出入りのできるスペースが一階にあることから、二棟で良好な環境形成に貢献しているが、設計時期が重なっていないため、閲覧室を向かい合わせにするなどの計画はできず、双方の施設間のフェンス

を設けない程度で両施設の連携はやや希薄であるように感じた。しかし、この二つの施設と公園との間で回遊歩行動線を確保しようとしたことは重要で、散歩の途中で日常的な気楽さで公文書館に立ち寄れるというような環境をつくり出している。東京都公文書館の南側隣地には国分寺新市庁舎の移転が予定され、お鷹の道や真姿の池湧水群に繋がる武蔵国分寺公園に隣接したこの地域が行政サービスと結びついた良質な環境となる先導的建築となることが望まれる。



日建連表彰2022



第63回BCS賞

# 東京都公文書館

選定理由 【選考委員】  
山内弘隆・堀部安嗣・菅 順二

西国分寺駅から東へ七分ほど歩いたところ、武蔵国分寺公園を背後に都立多摩図書館に隣接して東京都公文書館が建っている。その良好な立地により気軽に立ち寄れるような施設の公開性に留意した計画となっており、一階に魅力的な企画展示、常設展示と閲覧のための公開スペースがある。一転、二・三階は保管のための閉じたスペースであり、建築の造形や材料など一階と二階以上で対比的な表現をとっている。一階のガラス外装のなか、公開スペースの内装では、多摩産杉材を用いた積層合板による流れるような三次元曲面の「アーカイブウォール」が印象的で、木調の居心地のよい閲覧室へ誘い込まれる。二・三階の外装はリン酸処理鉄板の下見板張り  
で閉じた保管機能を象徴した外

装デザインとしている。  
室内環境としては、二・三階では保管環境の維持のために「魔法瓶構造の書庫」と設計者がいうところの平断面計画としている。これは、周辺の名水百選にも選定される湧水脈を保護するために保管諸室を地下に設けず地上階とすることから考案されたもので、同設計者による隣接の都立多摩図書館で実施実証された方法である。外壁と書庫・史料室・保管庫の間に設備スペースなどの機能を有する緩衝領域を設け、屋根スラブも五〇〇ミリの断熱材を挟んだ二重スラブとしたもので地下と同じ安定した温湿環境をつくり出している。この「魔法瓶構造」と日射を遮断するリン酸処理鉄板のルーバーを施した外断熱の鉄筋コンクリート外壁による一次消費エネルギー削減に加えて、屋上全体に設置した太陽光発電パネルによりZEB化実証建築物となっ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ